



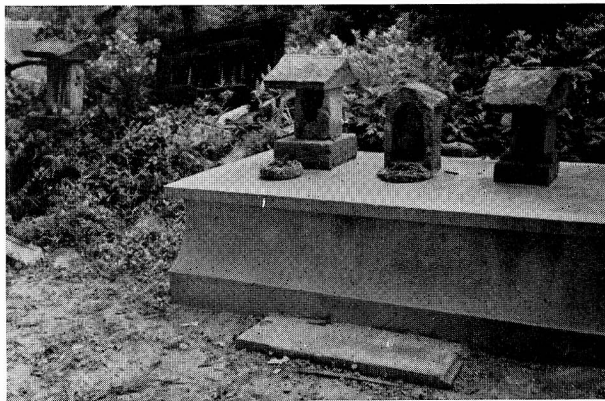
宮袋富士神社境内併記の小祠へ  
供えたわらおぶき

きたものとの、系列のはっきりした神社もあまり確証がにぎれない。中荒井村の旧肝煎が千葉家で、この旦那寺が千葉寺であるのは、関連性を思わせるが、それを明らかにするには、既に資料が散逸して容易でない。

これら屋敷、家々には興亡があり、特に水害などによる村や屋敷の移動もあり、その幾つかの部落のを寄せ宮した時代がある。これが屋敷神・鎮守神を混同させると共に、隣部落の祭礼が混じったり、逆にその合同・分離で、いろいろの争いなど起った例も少なくない。

どこの神社の境内にいても寄せ宮の多いのに驚く。廃家の屋敷神の移されたものもあり、石の小祠のみが、雑然として寄せられてもいる。ここが、小正月などのメ縄や、古くなった御幣の納め場所にもなっている。

民間信仰がやがて年中行事のような形になっているものに道祖神がある。もともとはみちの神で、災の神と書いたりして、小正月の火祭



小出富士神社境内への寄せ宮と幣の収め場